

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
知覚・認知心理学		選択	2	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
柗木 隆寿	B306	t.masaki	火曜日 10:30~12:50		
授業の目的・概要	<p><目的>知覚、認知といったヒトの情報処理過程に関する知識を習得し、これらの社会への応用例を自ら考え、説明することができるようになる。</p> <p><概要>この文章を読んでいる最中にも、視覚、記憶、思考といった様々な心理的機能が働いている。本講義では、知覚心理学と認知心理学に関する諸事項を概説し、日々当たり前に行っていることが、どのような心理的プロセスから成り立っているかを解説する。また、これら心理的機能の障害についても説明する。講義中に視聴覚資料の閲覧だけでなく、実験や調査をグループワークとして体験することがある。その体験内容や、準備学習で調べてきた事項について簡単なディスカッションなども行い、知識の定着を図る。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	毎回講義に出席し、積極的な態度で受講することを望む。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。				
参考書	最新 知覚・認知心理学 その現在と将来展望 / 著: 岡林 春雄 / 金子書房 知覚・認知心理学 / 編: 石口 彰 / 放送大学教育振興会				
外部教材	無し				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	感覚・知覚の基本的事項を説明することができる。			HC(2)、(3)、(5)	
②	記憶の諸理論について理解し、説明することができる。			HC(2)、(3)、(5)	
③	ヒトの思考の特徴について理解し、説明することができる。			HC(2)、(3)、(5)	
④	知覚・認知の障害および応用例について説明することができる。			HC(2)、(3)、(5)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーションを行う。知覚、認知といった心の情報処理過程の基本的事項について学ぶ。	講義	シラバス・配付資料を熟読し、本講義の概要をまとめる。	3.5	
2	感覚の種類と一般的特徴について学ぶ。	講義	配付資料を熟読し、各専門用語の意味を覚える。	3.5	
3	視覚について学ぶ。	講義・演習	視覚系の構造・機能について配布資料をもとに整理する。	3.5	
4	聴覚・その他の感覚について学ぶ。	講義・演習	各感覚系の構造・機能について配布資料をもとに整理する。	3.5	
5	知覚の諸特性および注意について学ぶ (1)。	講義・演習	配付資料を熟読し、各専門用語の意味を覚える。	3.5	
6	知覚の諸特性および注意について学ぶ (2)。	講義・演習	配付資料を熟読し、各専門用語の意味を覚える。	3.5	
7	記憶の構造・種類について学ぶ。	講義	記憶に関する基本的な心理学専門用語を覚える。	3.5	
8	知識および意味のネットワーク理論について学ぶ。	講義	各理論について配布資料をもとに整理する。	3.5	
9	ワーキングメモリについて学ぶ。	講義・演習	配付資料を熟読し、各専門用語の意味を覚える。	3.5	
10	思考・推論・意思決定について学ぶ (1)。	講義・演習	配付資料を熟読し、各専門用語の意味を覚える。	3.5	
11	思考・推論・意思決定について学ぶ (2)。	講義・演習	配付資料を熟読し、各専門用語の意味を覚える。	3.5	
12	認知と感情の関係性について学ぶ。	講義・演習	配付資料を熟読し、各専門用語の意味を覚える。	3.5	
13	知覚・認知心理学の応用について学ぶ。	講義・演習	実際の応用例を自ら調べまとめる。	4	

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

14	知覚・認知の障害について学ぶ。	講義	実際の症例を自ら調べまとめる。	6
15	本講義全体を振り返り、今後の展開について学ぶ。	講義	配付資料をもとに本講義で得た知識・技術を整理する。	8
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照			

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		70	0	0	0	30	100
総合 力 指 標	知識・技術力	50	0	0	0	10	60
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	10	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
試験	①	✓	講義内容の理解度について、学期末に定期試験を実施し評価する。知覚・認知心理学に関する専門用語を正しく理解しておく必要がある。ただの暗記ではなく、多様な日常例について専門用語を用いて自ら説明できることが高い評価につながる。	学内掲示および Microsoft Teams を利用して、総評や個別のフィードバックを行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			
レポート	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①	✓	毎回の講義でリアクションペーパーの提出を求め、その内容を評価する。リアクションペーパーには講義中に出される課題への解答、および講義内容に対する理解、発見、疑問などのコメントを記述することになる。内容の妥当性や、問題発見能力を評価する。	学内掲示および Microsoft Teams を利用して、総評や個別のフィードバックを行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			

備 考

他 担 当 教 員	なし
教員の実務経験	なし
実践的授業の内容	該当せず
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ● 本講義は公認心理師取得のために必要な科目「知覚・認知心理学」に対応した科目である。公認心理師取得希望者は必ず履修すること。 ● Microsoft Teams を用いて諸事の連絡を行うので確認を怠らないこと。 ● 全 15 回が登校授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。 ● 今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。